

ともしび No.0

デュシェンヌ型筋ジストロフィーの原因遺伝子が発見されたのが 1988 年ですから、今年でもう 30 年が経過しました。やっと最近になって、遺伝子レベルでの治療が現実的となってきました。これは患者さんやその家族にとって、長いトンネルの出口が見えてきたような希望の光（ともしび）です。これからの 20 年は、きっと新しい治療が次から次へと生み出されることでしょう。

我が国では国立精神・神経医療研究センターや多くの大学で先駆的な研究がなされており、神経・筋疾患患者登録サイト Remudy など、ネット上でかなりの情報を見ることができます(<http://www.remudy.jp/news/index.html>)。一方で、海外でも多くの治療が開発されていますが、英語で発表されることがほとんどであり、ネット上で検索をしても、理解の難しい専門用語に悩まされることが多いと思います。

この度、四国神経筋センターでは、筋ジストロフィーを中心とした神経筋疾患の治療に関して、海外で発表される情報を中心に紹介をさせていただくこととしました。筋ジストロフィーの治療が一日も早く現実的なものとなることを願っている一人として、海外の新しい情報をお伝えすることで、少しでもお役に立てればと願っています。ご意見やご感想がありましたら、お知らせください。

2018.6.1 徳島病院 四国神経筋センター長 西野洋